

■ 令和7年度 岐阜市地域福祉推進委員会

第3期岐阜市地域福祉推進計画 今年度の取組について

令和8年2月6日



目次

第3期岐阜市地域福祉推進計画の概要	P.3
重点施策の進捗状況	P.4
重点施策（1）コミュニティソーシャルワーカーの配置	P.5
重点施策（2）多様な主体による地域貢献活動の促進	P.11
重点施策（3）誰もが集える居場所づくりへの支援	P.16
重点施策（4）ひきこもり状態にある方への支援	P.20
重点施策（5）高齢者等が抱える課題への総合的な対応	P.23
成果指標の進捗状況	P.25

第3期岐阜市地域福祉推進計画の概要

【基本理念】

手をつなごう 誰もが安心していきいきと 心豊かに暮らせる 市民が主役のまちづくり

【基本方針】

1 「知る・育む」

① 助け合う・支え合う意識の向上

② 地域福祉の担い手づくり

③ 広報・啓発活動の充実

2 「つながる ・支え合う」

① 多様な交流の場・居場所づくり

② 地域住民を取り巻くネットワークづくり

③ 災害に備えた助け合いの関係づくり

3 「受け止める ・寄り添う」

① 困りごとを解決する仕組みづくり

② 権利擁護の推進

③ 再犯防止対策の推進

【取組の方向性】

【重点施策】

(1) コミュニティ
ソーシャルワーカーの配置

(2) 多様な主体による
地域貢献活動の促進

(3) 誰もが集える
居場所づくりへの支援

(4) ひきこもり状態にある
方への支援

(5) 高齢者等が抱える課題
への総合的な対応

重点施策の進捗状況

R7年度 進捗状況

重点施策(1)

コミュニティ
ソーシャルワーカー
(CSW) の配置

CSWを東部地域に
配置

地域での活動を
開始

重点施策(2)

多様な主体による
地域貢献活動の促進

企業への
アンケート実施

企業への
出前講座を実施

企業がサロンの
講師を担当

重点施策(3)

誰もが集える居場所
づくりへの支援

支援機関への
ヒアリング実施

居場所事業を
行っている機関への
アンケート実施

重点施策(4)

ひきこもり状態に
ある方への支援

ひきこもり地域
支援センターを
設置

オンライン居場所
(メタバース)
を開設

重点施策(5)

高齢者等が抱える課
題への総合的な対応

ニーズに応じた
事業改善 及び
新規構築

身寄りのない高齢
者等への支援につ
いて研究

60歳以上の幸福度
(R7年度市民意識調査)

R7年度:7.0%



R6年度:6.7% (基準値)

重点施策（1）コミュニティソーシャルワーカーの配置

▶CSW（コミュニティソーシャルワーカー）とは

地域の関係者や支援機関などの「**つなぎ役**」

地域の「**身近な相談窓口**」

CSWの3つの役割

①個別支援

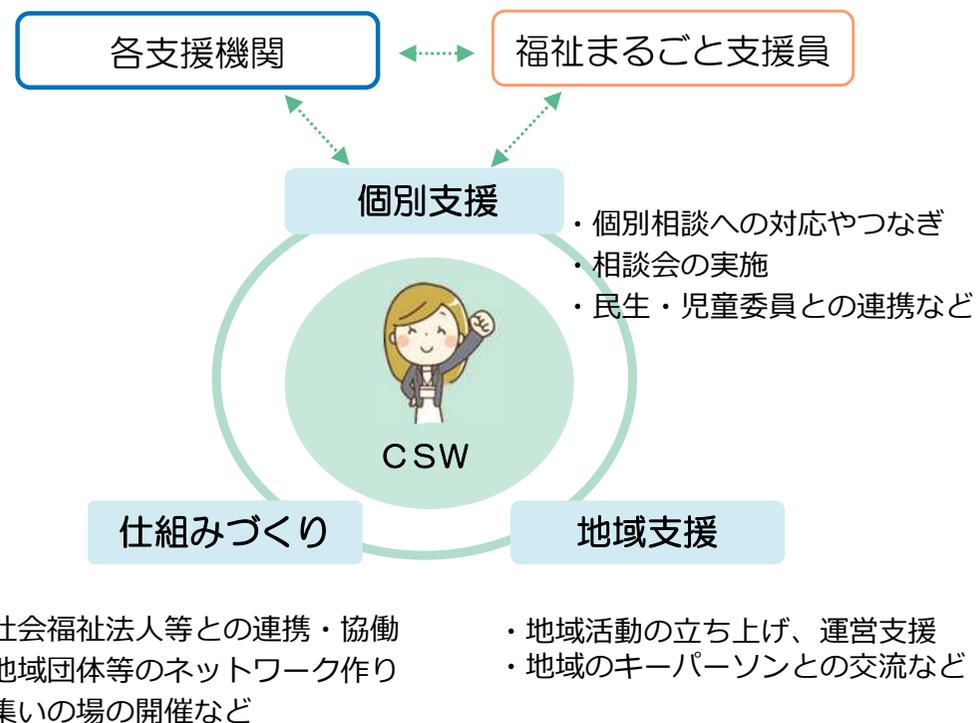
地域に出向いて、様々な人とのつながりを作ること
で**困りごとを早期に発見**し、その解決のために
一緒に考え、支援する。

②地域支援

多様な主体による地域活動支援や、集い、学び合い
などの**場の創出**に向けた**支援**を行う。

③仕組みづくり

関係団体等と連携し、現行の制度では対応が難しい
課題に対して、実情に合った**支え合いの取組**を
形にする。



福祉まるごと支援員とは…

▶R4年度より開始した「重層的支援体制整備事業」の中核を担う支援員（市社協に委託）。

▶複雑・複合化した課題を抱えた世帯に対して、関係する複数の支援機関の仕切り役となり、チーム支援がスムーズに行えるよう支援機関を支援する。

福祉まるごと支援員など、多様な主体と連携して
地域福祉のネットワーク化をめざす

▶ モデル地域の選定

STEP
1

候補エリアの選定

選定項目

- ▶ R7.2 社会福祉協議会支部へ実施したアンケート調査結果
- ▶ 高齢化率、単身高齢者世帯数
- ▶ 地域活動（サロンの開催、生活支援サービス等）の実施状況
- ▶ 地域資源（福祉施設の有無、住民主体型デイサービス、認知症カフェ等）の状況

19の日常生活圏域から3つのエリアを候補として選定

白梅華（白山、梅林、華陽）

東部（岩、芥見、
芥見東、芥見南）

精華（市橋、鏡島）

STEP
2

候補エリアへのヒアリング

- ▶ ヒアリング先：社会福祉協議会支部、老人クラブ、地域包括支援センター
- ▶ ヒアリング項目：①地域福祉の取組、②地域が抱える課題、③CSWに期待すること

- ①
- ・ 空き家を活用した居場所づくりなど、**地域主体でスタートした取組が多い**（東部）
 - ・ **地域包括支援センターの活動が活発**（東部）
 - ・ **地域主体でスタートした地域交流イベントが続いている**（精華）
 - ・ **講師候補者の発掘や、協力が期待できる企業への声掛け**（白梅華）

- ②
- 役員等の**担い手不足**（3エリア共通）

- ③
- ・ **地域の声を直接聞く機会**の創出を期待（東部）
 - ・ サロンなどに出向き、**地域特性の把握**を期待（精華）
 - ・ 地域で暮らす人が**楽しくなるよう、企業等との連携**を期待（白梅華）

STEP
3

総合評価

▶ 候補エリア選定の際の各地域の得点及び、ヒアリング結果を市、社協にて評価し、総合的に判定

東部地域（岩、芥見、芥見東、芥見南）をモデル地域に選定

▶ 周知・広報活動

■ 各種地域団体への説明会 (7月～9月)

自治会、民生・児童委員、老人クラブ、社協支部 包括支援センター東部

延べ17回 190人参加

■ チラシの配布

(4地区に全戸配布)

約6,000枚配布



■ 通信の発行 (9月、11月発行)

(回覧やサロン等で配布)

各1,000部発行



■ 講演会

みんなでつくる地域共生社会

～あなたの「こうしたい！」が地域を動かす～

目的: 地域共生社会やCSWについて知ってもらう

内容: 地域共生社会について、佐甲委員長が講演
先進都市(大阪府堺市)や東部地域での取組を紹介



78人参加



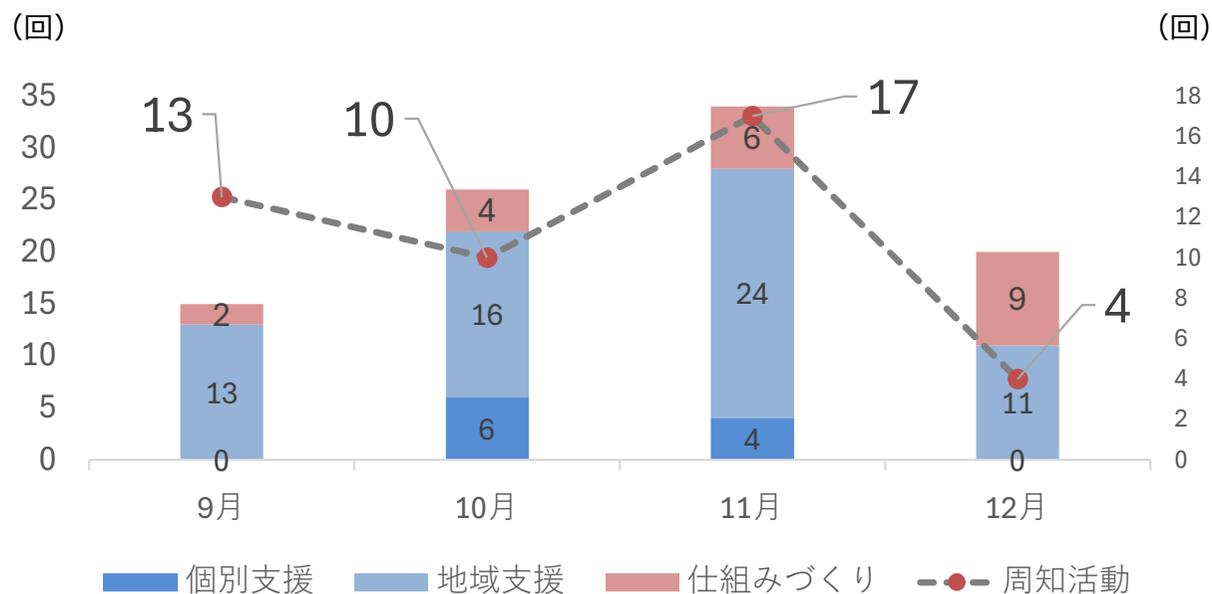
(12月12日実施)

▶ 東部地域での活動実績（9月～12月）

■ 活動回数

4か月総合計

139 回



■ 活動内訳（地域とのつながりの分類）

	広報、周知活動	個別支援						地域支援					仕組みづくり				
		直接相談・支援	間接支援	地域からの発見・つなぎ	他機関へのつなぎ・連携	地域との連携・協働支援	会議等	関係形成	組織化・立ち上げ	講座（サロンの実施）	継続支援	連絡調整	社会資源・地域課題の把握	集いの場			仕組みづくり 会議開催
合計	44	0	5	5	0	0	0	37	1	7	13	6	21	0	0	0	
		10						64					21				

▶役割 1 (個別支援)

■ 個別相談会の開催

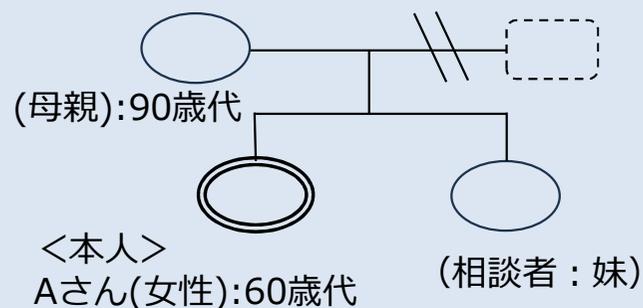
R7.10~12 **6**回開催 相談件数 **2**件

(地域の交流の場であるサロンと同時開催)



■ 相談事例

<家族構成>



母：
・がん治療のため入院中

本人：
・統合失調症で支援拒否
・人が訪問すると、不安定になる

世帯：
・自宅は散らかっている
・ご近所や民生委員との関係もよくない

<相談のきっかけ>

- ・本人を心配した相談者(妹)が地域包括支援センターに相談。
- ・地域包括支援センターの基本的な支援対象は母親のため、妹の同意を取り、CSWに情報提供。

<今後の動き>

- ・現在関わりがある地域包括支援センターとの連携により世帯状況を確認し、必要な支援機関につなげていく。



<今後想定されるつなぎ先関係機関> 民生委員、保健センター、地域保健課、生活福祉課、福祉まるごと支援員

▶役割 2 (地域支援)

■ 活動の継続支援の事例

～サロンの継続可能な開催場所の確保～

夏場に空調のない
場所でサロンを開催

！熱中症の心配

！参加者が高齢者

！開催時間の短縮

サロン中止の危機

課題

現在の開催場所近辺の
公共施設を利用できないか？



使用目的が限られていたため、
別の場所を探す必要あり

CSWが調整



R8年度の
使用許可をもらう

- ◎ **活動の継続を確保**
(参加者の居場所の確保)
- ◎ **気温を気にせず活動可**
(空調完備)
- ◎ **参加者を増やすことも可**
(開催場所が広がる)
- ◎ **開催時間の維持**

課題の解消

▶役割 3 (仕組みづくり)

■ 社会資源・地域課題の把握

- 子どもを対象とした行事や、情報を集める手段が少ない。
- 夏まつりを子どもも大人も集まれるイベントにしたい。
- 若い世代が地域活動に参加する機会を増やしたい。



R8.1以降、月1回

「集いの場 ぷらっと」を開催

課題解決に向け
ネットワークを構築



重点施策（２）多様な主体による地域貢献活動の促進

施策の方向性

- ・誰もが支え、支えられる**共生社会**を**推進**するため、地域住民や地縁組織だけでなく、**企業**や**社会福祉法人等**も**担い手**となれるよう、**地域貢献活動**の**活性化**を図る
- ・子どもや若者など**次世代の担い手**を**育成**するため、**学校**や**地域**との**連携**による取組を進める

▶ 地域貢献活動（地域参加）の調査

■ 企業等へのアンケート調査

〈目的〉

- ・企業等における**地域貢献活動**の**取組状況**の把握
- ・活動に**関心**や**意欲**がある**企業等**に対する**支援策**の把握

〈対象〉

- ・市社協 R7年度会費依頼企業
- ・岐阜青年会議所会員

〈送付数〉

513件

〈回答数〉

20件（回答率3.9%）

〈質問項目〉

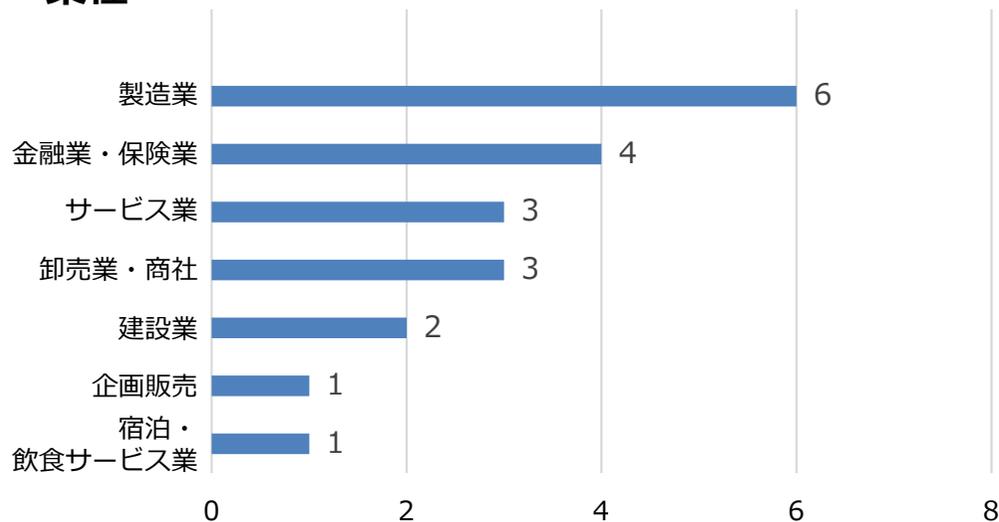
・ CSR、地域貢献活動関係

- ・ **取組状況**、実施されている**主な取組**
- ・ 活動を行う上での**課題**
- ・ 活動を行うにあたり、**連携・協働したい先**について
- ・ 今後、**新たに活動**を行うことが**可能な取組** など

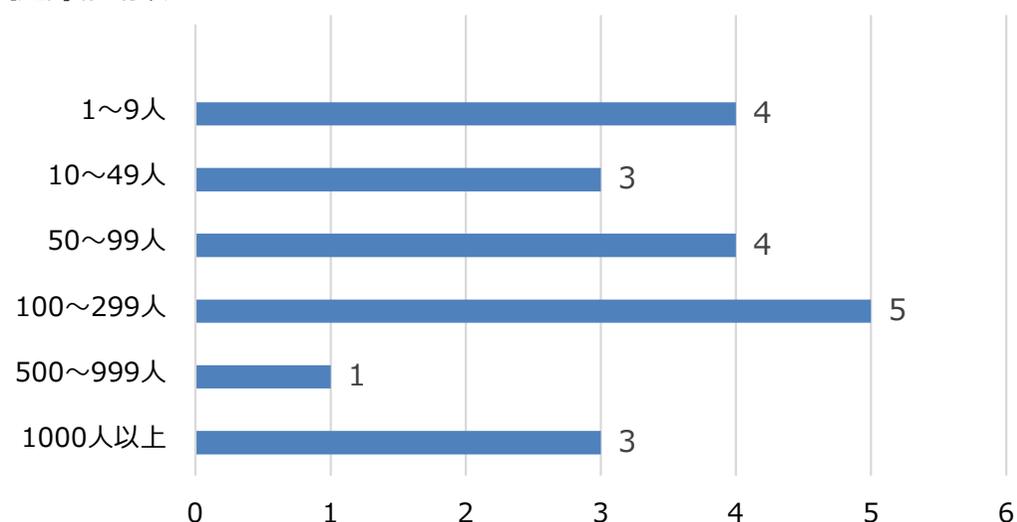
CSR (Corporate Social Responsibility) とは、「企業の社会的責任」と訳され、企業が社会の一員として果たすべき様々な責任のこと。

■ 企業等へのアンケート調査（結果） ※一部抜粋

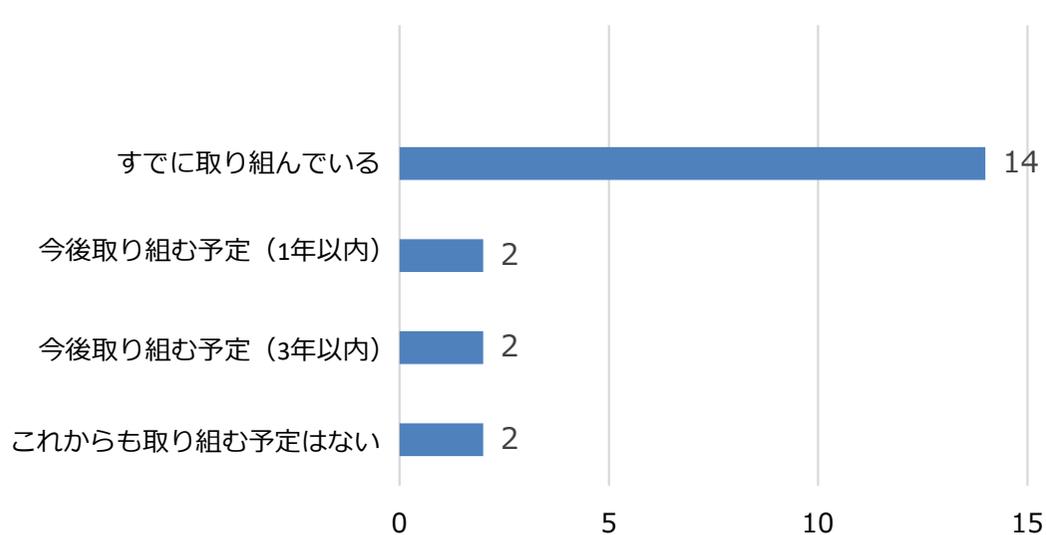
業種



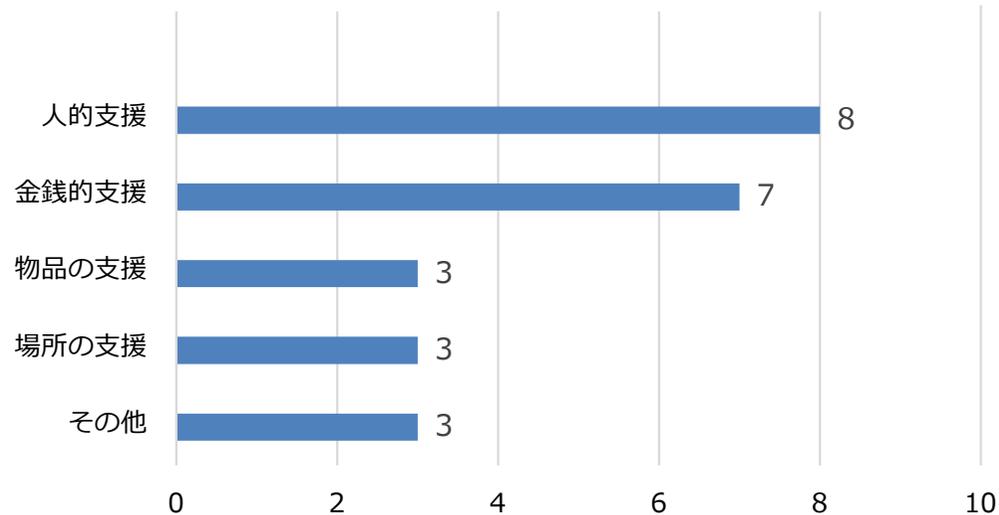
従業員数



CSR・地域貢献活動の取組状況

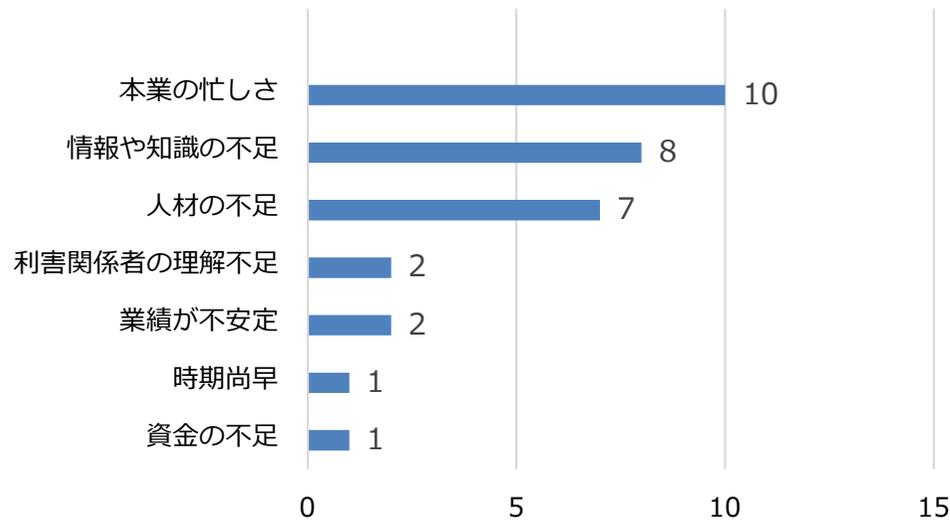


実施されている主な取組（複数回答可）

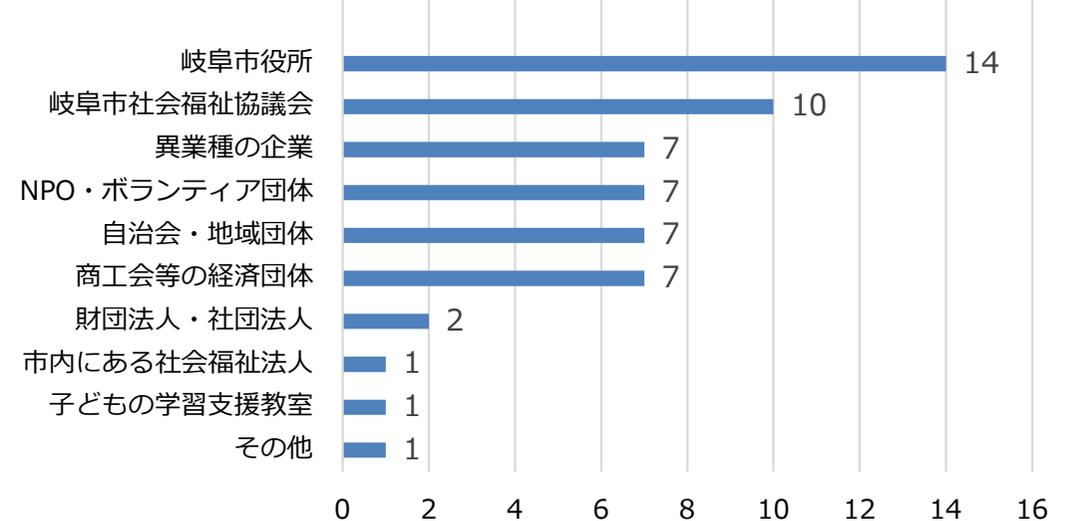


■ 企業等へのアンケート調査（結果） ※一部抜粋

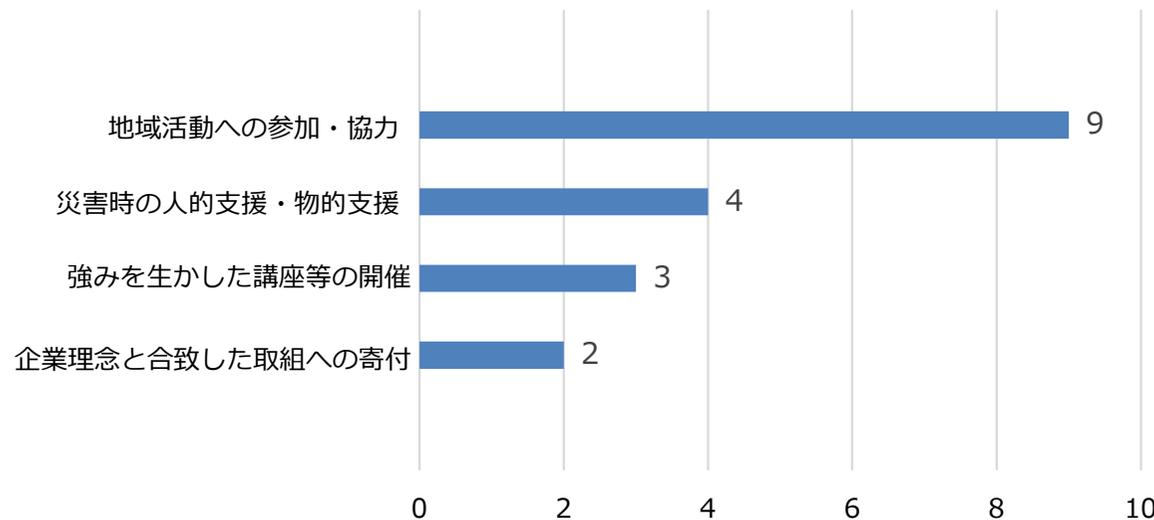
CSR・地域貢献活動を行う上での課題 （複数回答可）



活動を行うにあたり、連携・協働したい団体等 （複数回答可）



今後新たに活動を行うことが可能である取組 （複数回答可）



■ アンケート調査から

- ・ アンケート回答企業への
ヒアリングを実施
- ・ 回答内容の**詳細把握**
- ・ 地域貢献活動の取組に向けた
協力関係の構築
- ・ 企業等への周知方法の検討

▶ 地域貢献活動（地域参加）の事例

■ 「企業」と「地域」が繋がった事例

（株）天翔苑（葬儀関係）からの地域貢献活動に関する相談

〈きっかけ〉

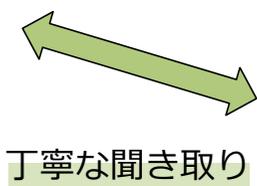
岐阜市地域福祉推進計画の重点施策に興味を持たれ社協へ連絡

〈企業側の思い〉

- ・「地域のために何かしたい」
- ・「地域の方々とつながりたい」



企業担当者



丁寧な聞き取り



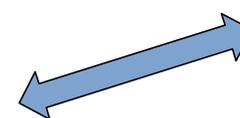
地域福祉コーディネーター

〈地域側の思い〉

- ・「サロンの内容がマンネリ化している」
- ・「新しい取組がしたい」



社協支部主事



地域課題の把握

双方の想いを…

〈マッチング〉



マッチング



企業担当者



社協支部主事

→ふれあい・いきいきサロンにて、
「**フラワーアレンジメント教室**」や
「**葬儀の豆知識講座**」を実施



〈今後について〉 新たな居場所立ち上げの協力者としてコアメンバーに入ってもらえるよう調整

■「企業」の福祉意識の醸成事例（岐阜北郵便局から福祉出前講座に関する相談）

〈きっかけ〉

- ・ 移動に配慮を要する方が来局され、隣接する県障がい者総合センターにて車いすを借りる
- ・ 車いすの必要性を感じ、貸出用車いすを導入
→正しい対応の仕方や車いすの使い方が分からない



地域福祉コーディネーター



企業担当者

市社協に福祉出前講座を依頼

地域福祉コーディネーターが出向き、職員を対象にした車いす体験を実施
さらに、高齢者も多く利用されることから、高齢者疑似体験を実施





▶地域のつながり・支え合いに向けた支援

★地域活動の活性化に向けた後方支援（地域福祉コーディネーターの活動）

R7年度の重点取組事業	目標値	達成状況
福祉教育の推進事業	50件	72件
地域における担い手の育成事業	7件	15件

(12月末現在)

【地域における担い手の育成事業 事例】

相談を受けた、ゆり訪問看護ステーションと社協支部をつなぎ、琴塚ふれあい・いきいきサロンにおいて体操指導や血圧チェック等を実施。その後、**地域の祭りへの参加につながる。**

重点施策（3）誰もが集える居場所づくりへの支援

施策の方向性

- ・誰もが地域で、顔見知りが増え、つながりを持ち、**住民同士のコミュニケーション**や**交流**が生まれるよう、思わず**参加したくなる**ような**場**と**機会**の提供に努める
- ・**居場所**に関する**ニーズ**を**把握**し、実態に即した**支援**を行うことで、既存の居場所を**活性化**するとともに、**新たな居場所の創出**に取り組む

▶ 居場所に関する調査

■ 新たな居場所創出に向けたヒアリング調査

〈目的〉

- ・支援関係機関が抱える**居場所**に関する**課題**や**ニーズ**の把握

〈対象〉

- ・支援関係機関 8機関
(機能強化型地域包括支援センター、
基幹相談支援サテライト、エールぎふ、
生活福祉三課、生活・就労サポートセンター、
ひきこもり相談室、地域保健課、保健センター)

〈ヒアリング項目〉

- ・(既存の)居場所につなげようと思ったが、
居場所につながらなかったケースについて
- ・実施している**居場所の課題**について
- ・あつたら良いなと思う**居場所の内容**について

■ ヒアリング調査結果概要

○(既存の)居場所につなげようと思ったが、居場所につながらなかったケースについて

- ・(本人が)住んでいる近くに居場所がない
- ・交通手段、交通費がない
- ・利用に関する手続きの問題
- ・居場所のスタッフとうまくいかない
- ・スタッフからきつい言葉を言われた
- ・スタッフへのつなぎ方、引継ぎ方が難しい
- ・本人は必要と思っていない、意欲がない
- ・自分の身元を明かしたくない人もいる
- ・家族が関わりを嫌がる



○実施している居場所の課題について

- ・交通手段がない(アクセスが不便)
- ・建物の老朽化
- ・活動内容が限定される
- ・土日の参加を希望する人が多い
- ・地域との交流が少ない
- ・担い手がない、参加者が少ない
- ・参加者の固定化(参加しづらい雰囲気)



○あったら良いなと思う居場所について

- ・スーパーの中などちょっと立ち寄れる居場所
- ・コミバスなどのバス停に近いと利用しやすい
- ・安心して行くことができる、喋らなくても良い
- ・同じ境遇の方と出会える
- ・役割を持てる、社会貢献ができる
- ・いろんな情報がもらえる
- ・昼間ではなく、夕方から夜に開かれている居場所
- ・いつでも行ける場所(常設)
→本人のルーティンに入れ込みやすく、誘いやすい
- ・本人にとって心の居場所になれば電話でも良い
- ・インターネット等バーチャルでも良いのでは
- ・本人に寄り添ってくれる人がいる
- ・話を聞いてくれる人がいる
- ・支援者ではない、別の形で関わられる方がいる



■ ヒアリング調査結果からみえる新たな居場所の方向性

キーワード

方向性

場所

- ・ 移動手段
- ・ ハード面
- ・ 場所、アクセス

★本人が行きやすい（物理的・精神的）場所を検討

- ・ 歩いて行ける距離、交通アクセスが良い
- ・ 本人にとって馴染みの場所（喫茶店、スーパーなど）



場所の創出については

CO・CSWと連携!!

CO（地域福祉コーディネーター）
CSW（コミュニティソーシャルワーカー）

内容

- ・ 開催日時、方法
- ・ メリット
- ・ 精神的な安心感

★開催方法・内容の多様化

- ・ 本人に合った開催方法（電話、オンラインなど）
- ・ 好きなことができる居場所（読書、スポーツ、ゲームなど）
- ・ メリットがある居場所（お土産つき）
- ・ 役割がある居場所（ボランティアなど）
- ・ 複雑な手続きなく利用できる居場所



★開催曜日・時間を柔軟に

- ・ 土日や夕方～夜に開催
- ・ 常設型も視野に入れる

人材

- ・ 支援者、スタッフ
- ・ 本人、家族

★サポーターの養成

- ・ 得意なことを活かしたボランティアスタッフを募集
- ・ 本人に寄り添ってくれる、本人の話しを聴いてくれる人
- ・ 家族や支援者とは違う第三者との関係



ボランティアの募集は
市社協VCと連携!!

VC（ボランティアセンター）

■ 既存の居場所活動の支援に向けたアンケート調査

〈目的〉

- ・ 集いの場に関する情報収集
- ・ 活動の継続や充実に必要な支援ニーズの把握

〈対象〉

- ・ 社協支部 50支部

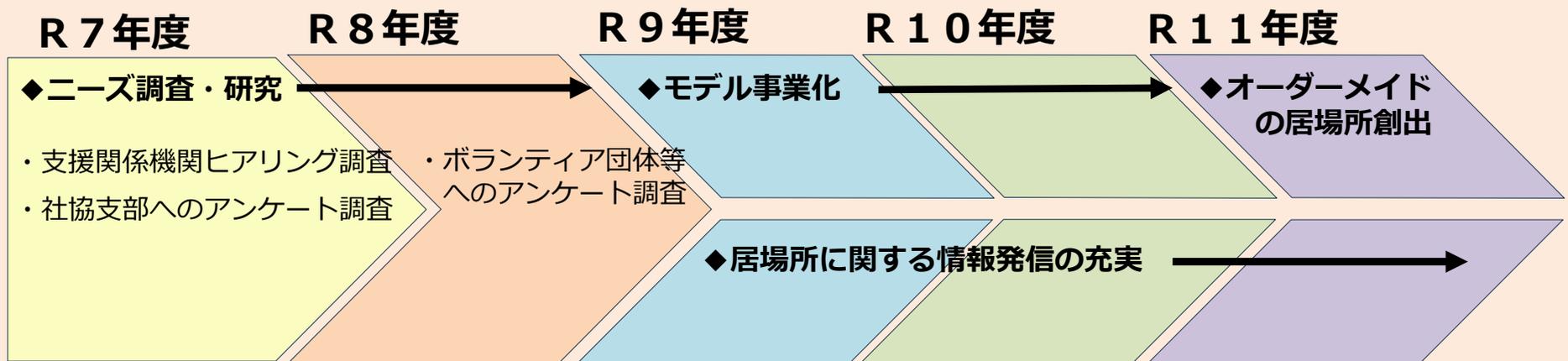
〈実施期間〉

- ・ 令和8年2月13日～3月6日

〈内容〉

- ・ 居場所の活動内容、開催頻度、開催場所、参加条件について
- ・ 活動をするうえで、課題だと感じることについて
- ・ 今後、活動を継続、充実させていくために必要な支援について
- ・ 現在、行っている集いの場の今後の展望について
- ・ 今後、実施したいと思う集いの場について

■ ロードマップ



重点施策（４）ひきこもり状態にある方への支援

▶ ひきこもり支援センターの設置

○国の支援の方向性

- ・身近な基礎自治体におけるひきこもり支援の充実
⇒R4 ひきこもり地域支援センターの設置主体を市町村へ拡大

○市のひきこもり支援施策の充実

相談しやすい環境の整備と支援の充実を図るため、

R5 ひきこもり相談室を設置

R7 相談室に居場所の機能を付与し、**「ひきこもり地域支援センター」**として位置づけ

○岐阜市ひきこもり地域支援センターについて

5つの取組により支援の充実を図っています。

- | | |
|------------|------------------------------|
| ・相談支援 | 相談室の設置、アウトリーチ、出前相談等 |
| ・居場所づくり | オンライン居場所 |
| ・ネットワークづくり | 岐阜市ひきこもり支援連携会議の開催 |
| ・当事者会・家族会 | 家族の集い「ほっとcafe」、兄弟姉妹を対象とした交流会 |
| ・講演会の開催 | 市民向け講演会等の開催 |

○ひきこもり地域支援センターとは

- ・ひきこもりに関する相談や支援を総合的に実施

設置条件：5つの必須事業の実施と専門の相談員の配置

⇒必須事業：相談支援、居場所づくり、ネットワークづくり、
当事者会・家族会、講演会等の開催

▶オンライン居場所（メタバース）の開設

○オンライン居場所（メタバース）の設置目的

相談者の声：「人と会うことに不安、外出が難しい」
「対面でなければ居場所などに参加しやすい」



外出しなくても参加でき、社会参加の第一歩になる
オンライン居場所を開設

○オンライン居場所の内容

▶ひきこもりの状態にある方を対象とした居場所

○定期会 毎月1回

- ・毎回テーマを定め、意見交換（テーマ例：私の大切なもの、苦手なこと等）

○企画会 隔月開催（9月、11月、1月、3月）

- ・社会につながるための企画を実施（民間居場所、支援者、医療機関の紹介等）
- ・兄弟姉妹を対象とした交流会を実施

▶家族向け学習会 隔月開催（8月、10月、12月、2月）

- ・「**岐阜市の支援施策**」の説明、「家族の関わり方について」の講演や意見交換

▶オンライン居場所（メタバース）の開設

○これまでの開催実績（R7.12時点）

- ・ 体験会（2回開催） のべ 9名参加
- ・ 定期会等（7回開催） のべ 9名参加
- ・ 家族向け学習会（3回開催） のべ12組参加

○オンライン居場所の様子



○参加者の声

「悩んでいるのは自分だけではなく、ほっとした」
「いろいろと勉強になり、参加してよかった」

重点施策（5）高齢者等が抱える課題への総合的な対応

- ・高齢者等が安心して暮らせる社会を目指して、生活面、安心・安全面、将来への備えなど、継続的にサービスを提供
- ・国では、更なる増加が見込まれる身寄りのない高齢者等への必要な支援の在り方について、検討されている

▶ 事業の改善・構築

■ 生活の質の維持・向上（改善）

ふれあい・いきいきサロン事業

- ・参加者の固定化
- ・参加人数の減少



専門職の力を借りて内容を充実

訪問看護ステーション 理学療法士

専門職
チーム

デイサービス 介護福祉士 福祉用具の事業所

内容

- ・介護保険制度についての講話
- ・転倒予防の体操
- ・転倒防止についての講話
- ・福祉用具の体験 など

参加人数の倍増 **10人** → **20人**

■ 非常時の安全・安心（事業構築）

市LINE公式アカウントを活用した

「高齢者見守り通知サービス」の開始

- ・新しい機器の準備不要で手軽に始められる
- ・2回連続で回答がない時は「アラート通知」でお知らせ



<見守られる人>

決まった時間に
メッセージ

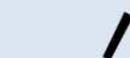
お元気ですか？

「はい」を
押して回答

2回連続で
回答がない！

アラート通知

<見守る人>



登録者数 **約200件** (R8.1.20現在)

■ 認知症支援及び権利擁護 (改善)

身寄りのない高齢者等への対応

課題

- サービス利用料が高額になる
ことがあり、利用しづらい
- 業者を規制する法律がなく、
契約トラブルが増加

- **日常生活支援**
金銭管理や福祉サービスの手続き代行など
- **入院・入所等の手続き支援**
入院・入所等の緊急連絡先の提供など
- **死後事務の支援**
葬儀や納骨、遺品整理などの手続き支援など

在宅生活を支えるサービスとして**法定化**

成年後見制度の見直し

課題

- 利用を開始した課題が解消しても、
止めることが難しい
- 後見人の権限が広く、
本人の意思が置き去りになる
- 本人の状況が変化しても、
後見人を交代しづらい

- **終身制の撤廃**
- 「包括代理」から「**限定的支援型**」へ
- 相性や生活への適合性に応じた**選び直し**

自分らしく生きるために**選べる制度**へ

👉 国の動向を注視しつつ、

終身サポート事業の検討 や **意思決定支援の利用促進** に取り組む

成果指標の進捗状況

R7年度市民意識調査概要

調査対象：満15歳以上の住民基本台帳登録者（中学生を除く）

調査方法：上記対象者から7,000人を単純無作為抽出し、オンラインでの回答を依頼

有効回収数：2,315件 有効回収率：33.1%



👉 基本方針1 「知る・育む」

成果指標	R6年度結果	R7年度結果	比較
自治会などの地域活動に参加している人の割合	48.8%	41.6%	DOWN
日々の生活の中で何らかの生涯学習(文化・芸術・スポーツ・ボランティア活動・社会人講座受講など)に取り組んでいる人の割合	25.9%	29.6%	UP

👉 基本方針2 「つながる・支え合う」

成果指標	R6年度結果	R7年度結果	比較
困りごとがあったときに相談したり、災害などの「いざ」というときに助け合える関係がお住まいの地域にある人の割合	40.1%	36.8%	DOWN
地域とのつながりある活動に満足している人の割合	21.4%	22.2%	UP

👉 基本方針3 「受け止める・寄り添う」

成果指標	R6年度結果	R7年度結果	比較
高齢者や障がいのある方にとって暮らしやすいまちだと思ふ人の割合	30.4%	31.7%	UP
身近に人種・障がい・性的少数者に対する差別や偏見、いじめ、虐待などの人権侵害があると感じる人の割合	22.2%	23.5%	DOWN